

特別養護老人ホームつばさ豊田

平成19年4月25日開設

- ・介護老人福祉施設 50床
- ・短期入所生活介護事業所 20床
- ・通所介護事業所 50名
- ・認知症対応通所介護事業所 24名
- ・居宅介護支援事業所



演題:食事拒否への対策と負担軽減 に向けた取り組み

副題:本人様、ご家族様・職員それぞれの想い



施設外観



事例利用者様状況

M.S様(女性) 年齢90歳 要介護度 5
既往歴:認知症、糖尿病
食事:ペースト食、補水は濃いトロミ
他:静養中心、発語はほとんどなく、意思疎通が困難。全介助

きっかけ

H23年夏、首を振る、歯を噛みしめるといった食事拒否が多くなる。そのため、スプーンでの食事提供が困難。ここで今後の対応をご家族様と相談をする。「胃瘻や点滴で痛い思いはさせたくない、施設で今後も過ごして欲しい。」と希望あった為、医療的処置はせず、可能な限り経口摂取で様子をみていく事になった。

食事摂取 ～経口摂取継続する為の対応～

H23.夏、ご家族様と相談をし、はちみつボトルでの食事提供を開始。口を閉じている所にボトルの端を唇中央、端側に入れる。この方法でほぼ10割食事摂取ができるようになる。顔をしかめるといった拒否はあるが、飲み込み動作での問題はなし。

H23.夏～H25.3月まで変化なく継続。

取り組み 話し合い～職員とご家族様の違い～

H25年3月、介助中に(うなり声をあげる、手で払いのけるような動作)が増える。ご家族様は頭を抑えたりと強引に介助を進めているが、スタッフが同じような方法で食事を提供し続ける事は難しい。

スタッフとして、
ご家族様の『食べて欲しい』という気持ちも理解できるが、M様の負担軽減をしていきたい。

話し合い結果 ご家族様の思い

『日々、本人の様子をみていて、嫌がる事が増えてきていると感じていた。食事がうまく摂れなくなつてから、これまで生きてくれてありがたい。親子なので、無理やり食べれるよう介助しているけど、スタッフさんは同じように出来ない気持ちは理解しています。』

本人の様子次第では中断も承知しています。

取り組み 食事量の調整と栄養バランス

より、拒否がひどい時は中断し、様子を見ることになった。しかしM様からすれば(食事を摂る)という苦痛は変わらない。

Q. では負担を減らすにはどうすれば良いのか…？

対策

栄養は維持しつつ、物質的量を減らす！

改善前	改善後
主食、副食、汁もの、小鉢+ エンジョイポチ1本(125cc 200粒)を3食に付ける 一日トータル:1300粒 ポチは食事中断時での不足を補う事を目的としていた	朝:主食1/2量+主菜+エンジョイポチ1本(200粒) 昼・夕:ポチ2本 一日トータルが維持できる 補助食品を主栄養とし、一回の食事摂取量の減少を目的とする。

M様の变化

- ・対応前のような拒否行動が減った
- ・食後、口から出してしまふ事が減った
- ・食事の見直しがきっかけか定かではないが、声掛けに対し、うなづきや発語(うん、うん、笑い声)がきかれるようになった

取り組み 状況に合わせた摂取方法

経緯

H25.11月、熱発が続く。(診断:風邪)
症状に疲がらみ、ムセ込みがあった為、これまで以上に食事摂取が難しくなる。

体調に合わせた食事提供をする必要あり。

対策

改善前

朝:主食1/2量+主
菜+エンジョイポチ1
本(200粒)
昼・夕:ポチ2本

改善後

朝:主食+主菜+ポチ
1本
昼・夕:ポチ1本ずつ
必要最低量に変更する

結果

・M様の身体状況に合わせることで、体調不良前後で体重は2キロ近く減少したが、**ムセ込みや痰がらみは落ち着いた。**
体調回復したが、食事は増やさず現状を維持する方向となる。

の評価

・状況と反するケアをする事への難しさを感じながらも、M様の身体・精神状態に合わせた対策を考えられた。その結果として、H23年から現在まで経口摂取を続ける事ができている。

今後の課題

食事内容見直し(調理、おやつレクの起案)
補助食品だけに頼ってきたが、味覚の変化をつける事も必要と考えている。トロミをつけたり、ペーストにしなくても美味しさを感じられる物を提供したい。

余暇活動の充実

現在、ご家族様との交流時間も今は食事介助のみとなっている。散歩や交流会を起案し、余暇活動の充実を図る。

変化に合わせた対応

体重が減少傾向にあり、ご本人様の身体機能低下を考えると、さらに摂食が難しくなる可能性がある。状況に合わせた対応を今後も考えていく。

ご清聴ありがとうございました。

